



「ロシアは領土を守るために『利用可能なあらゆる武器』を使う。これは決して口だけの脅しではない」

(9月21日演説から)



岸田首相は ロシアにも 北朝鮮にも
核兵器を使うな！

なくせ！と言うべきです！

「ミサイル発射は、『戦術核』の搭載を想定した軍事訓練。米空母『ロナルド・レーガン』も参加した合同軍事演習に対する警告だ」

(10月10日労働新聞)



だからこそ 核戦争を 止める外交を

国連軍縮週間

10月24日
～30日

「もし使われたら…」
ではなく、
絶対に使わせない
外交努力を
被爆国として、
あの惨劇を知る国として

プーチン大統領は核兵器を使用すると威嚇を強め、これに対して米軍とNATO軍も核兵器の使用を想定した演習をおこなっています。また、北朝鮮のミサイル発射は、日米韓や米韓が日本海でおこなった米国原子力空母『ロナルド・レーガン』が参加した、空母打撃軍の合同訓練への対抗・警告です。「ロナルド・レーガン」の母港がある神奈川県横浜

賀などは真っ先に攻撃目標となります。

核兵器は、一度使用されれば、たとえそれがミスによるものであっても、地球規模の破滅をもたらします。「もし使われたら…」ではなく、絶対に使わせないなりません。

岸田首相は、8月と9月に国連で2度にわたって演説をしていますが、「核兵器のない世界の実現を」と言いながら、ロシアにも北朝鮮にも「核兵器を使うな、なくせ」と迫ることはしていません。被爆国としてはっきり言うべきです。

核兵器禁止条約こそ、平和への道

核兵器禁止条約への参加・批准は着実に増え、9月22日現在で署名国91か国、批准国は68か国へ前進しました。

多くの国々が核兵器廃絶に向けて核保有国を包囲を強めています。

米国との同盟関係のオーストラリアも政権交代によって、核兵器禁止条約批准に前向きな態度にかわっています。

被爆者とともに、核兵器のない平和で公正な世界実現のために、あなたの署名が大きな力となります。核廃絶へ政府を動かしましょう。

(2022年10月24日)



核兵器禁止条約



核廃絶へ、
政府を動かそう

署名の
QRコードは
こちら



私たちの署名で

国連認証NGO：原水爆禁止日本協議会（日本原水協）
東京都文京区湯 2-4-4 平和と労働センター6階
TEL03-5842-6031 Mail:antiatom55@hotmail.com

